

- T なにか不安なことでもあるの？
 C ……(沈黙)…… (5)
 C いじめる連中とケンカしたからおもしろくないし、先生もよくわかってくれないから……。
 T うーん。いじめられる…。(※5)
 C 学校のみんから手紙が来て……あいつらもよこしたけど、口から出まかせだろうし…。
 T 心から信用できなくて許せないんだね。(※6)
 C ええ、そうです。

5 沈黙

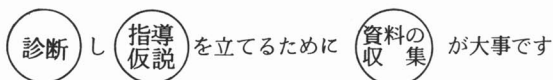
音声的には空白ですが、心の中では動きのある場面(ことばを探している、カウンセラーのことばを味わっている、告白してホッとしているなど)です。ここでは待つことが原則です。

※6 明確化

本人がうすうす気付いていることを、カウンセラーが先取りして言語化し、意識化させることです。

◇資料の収集

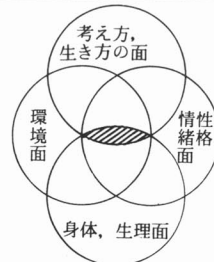
・ インテーク面接では、ラポール形成と共に



・ 参照 研究紀要62号(教育センター発行)

「事例を通した教育相談の進め方に関する研究」

・ 資料は右図のように、多面的に生育歴に沿って収集します。



(先はいじめの話から、友人や先生、家族について聴取しました。その中で、友達の視線が気になることとか本人の家族に対する見方、考え方が明らかになりました。)

- T ところで、さっき、寝つかれないとか人の視線が気になるとか言ったけど、その他、気になることは？ (6)
 C 馬鹿らしいんですけど、よく手を洗います。きれいになったと自分で納得するまで洗わないと気になります。
 T うーん。そういうことは、いつごろから？
 C 高2のところからです。そのころは、風呂に1時間半以上も入っていました。
 T 1時間半も……。なにしてたの？
 C 洗いおけをきれいに洗ったり、身体を何回も洗ったりしていました。
 T そう、それで、今は？
 C そういうことはしなくなりましたが、人が触れたものは気になって……。
 (この後、心理検査を実施しました。) (7)

6 カウンセラーとして必要な態度

カウンセラーの態度として、受容的、共感的な姿勢が必要であることは、既に述べてきたとおりです。この他に、「客観的な態度」や「自己一致した態度」などが必要です。

<客観的な態度>

クライアントを受容しながらも、常に冷静に判断する態度が要求されます。この事例でも、寝つきとか視線とかから、神経症的な強迫行為の有無を確かめようとフィードバックしています。

<自己一致した態度>

例えば、面接中に相手に対する批判的な気持ちがあわいてきた時に、それを抑制して見かけだけ受容するのではなく、批判的な自分を受容しながら相手の話を聴く態度のことです。

7 心理検査については、次号で詳しくふれます。